

# 戦前の出版検閲を語る資料展

# 浮かび上がる 検閲の実態

会期  
2018年1月10日(水)  
～2月3日(土)

会場  
東京古書会館  
2階 情報コーナー  
月～土 10:00～17:00(日曜・祝日休館)

主催：神田古書店連盟・千代田図書館  
協力：東京都古書籍商業協同組合  
(東京古書組合)  
小林昌樹氏  
(千代田図書館「内務省委託本」研究会)

## ●関連講演会

### 浮かび上がる警保局図書課

日時：2018年2月3日(土) 14:00～15:30

講師：安野一之氏

(千代田図書館「内務省委託本」研究会)

会場：東京古書会館 7階 会議室

(事前申込制、参加無料)

戦前期の日本では、中央官庁の一つであった内務省が出版物の検閲をおこなっており、新聞・雑誌・書籍などの納本が義務づけられていました。しかし、検閲業務で実際に用いられた原本はさまざまな事情により散逸したため、現在確認できるものは、そのごく一部だといわれています。残存する記録が少ないため不明な点が多い出版検閲ですが、現存する検閲原本や内務省の内部文書などから、検閲体制下における出版事情をうかがうことができます。

また、戦時色が濃くなると国家総動員法による物価統制の影響が古書にも及び、「公定価格表」が作られました。当時の出版物は検閲以外にも、発行前には企画内容の審査、用紙の割当て、発行後には二次流通(古本)の価格に至るまで統制が行われたのでした。

昭和初期の出版検閲についてパネルで解説するとともに、千代田図書館蔵「内務省委託本」ならびに、東京古書組合蔵「公定価格関係資料」など、検閲や出版物統制の実態を今に伝える貴重な本や資料を展示します。

※2011年に千代田図書館で開催された同名の企画展示と概ね同じ内容です。